

次期「地方版総合戦略」の策定状況等に関する調査結果

令和元年11月15日

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

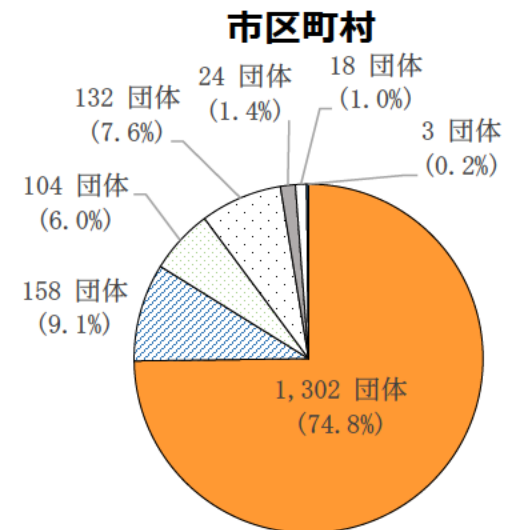
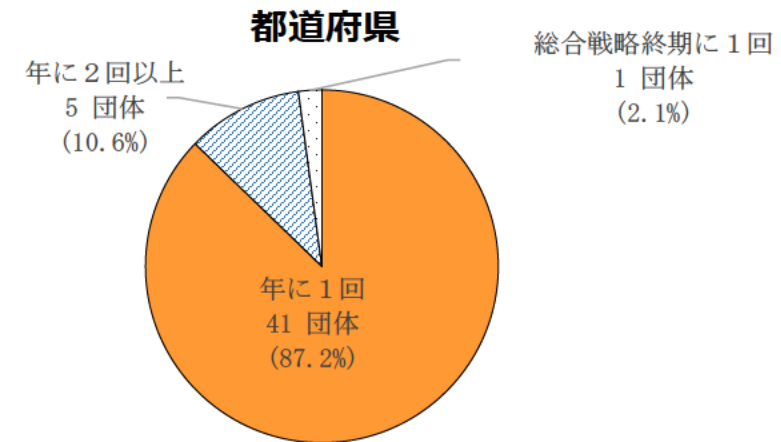
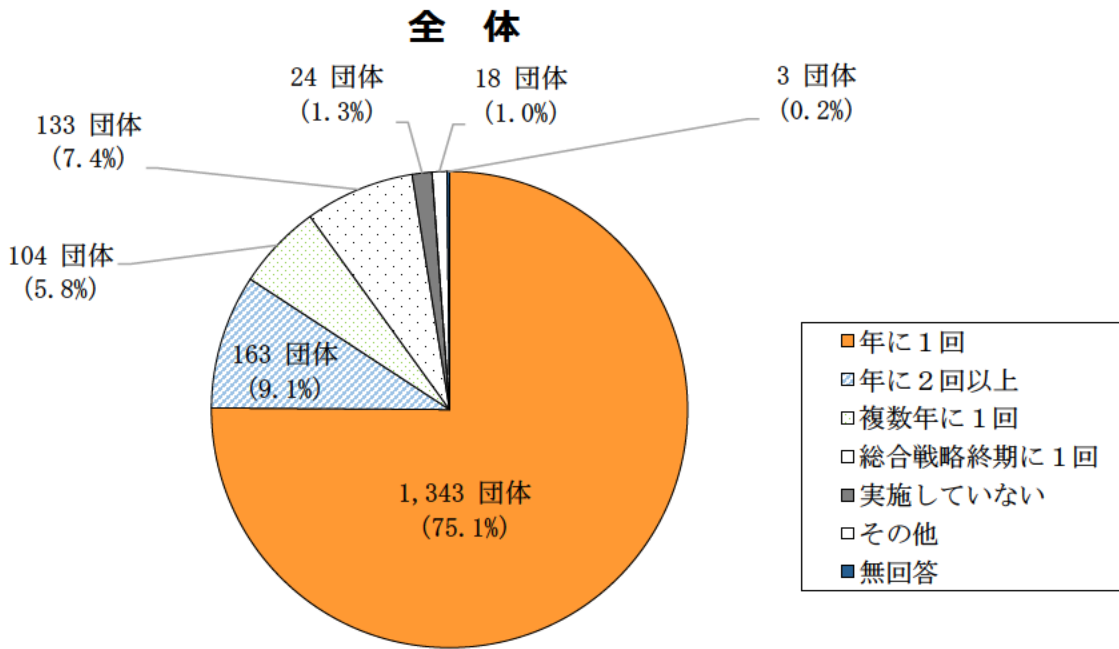
本調査結果は、各地方公共団体における次期「地方版総合戦略」の策定状況等を把握するとともに、次期「地方版総合戦略」の策定作業に当たって参考としていただくためにとりまとめ、公表するものです。

<調査対象等>

- ・ 調査対象 : 全地方公共団体 (1,788団体 : 47都道府県、1,741市区町村)
- ・ 調査方法 : 調査票による回答 (メールで提出)
- ・ 調査項目 : 29項目 (うち自由記載5項目)
- ・ 調査時点 : 令和元年8月1日現在
- ・ 回答数 : 1,788団体 (47都道府県、1,741市区町村)

現行の「地方版総合戦略」の効果検証の実施頻度

- 現行の「地方版総合戦略」の効果検証を実施している地方公共団体は、全体で97.5%（都道府県：100%、市区町村：97.4%）となっている。
- 効果検証の実施頻度をみると、「年に1回」は全体で75.1%（都道府県：87.2%、市区町村：74.8%）、「年に2回以上」は全体で9.1%（都道府県：10.6%、市区町村：9.1%）となっている。



効果検証を実施していない理由のうち、主なもの

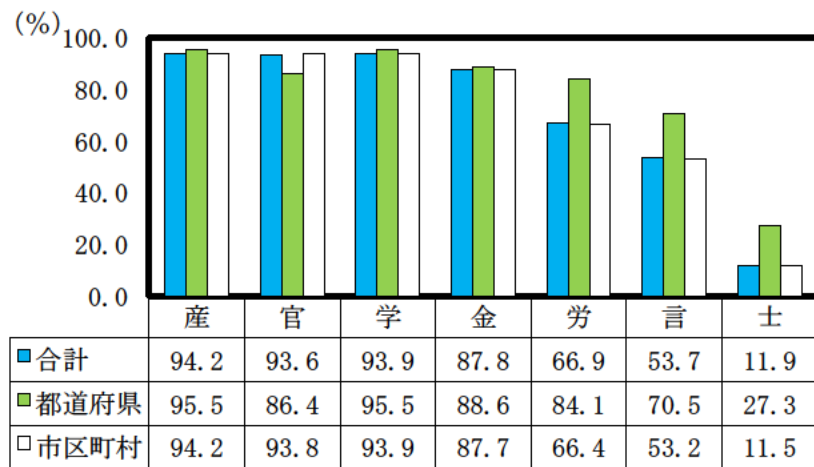
- ◆ 地方版総合戦略に基づく交付金事業の効果検証は随時実施しているが、地方版総合戦略全体の効果検証は未実施。
- ◆ 最終年度に実施予定。

(備考) 1. 「無回答」は、いずれの項目にも回答がなかった団体数。
2. 端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

現行の「地方版総合戦略」の効果検証の手法

- 現行の「地方版総合戦略」の効果検証に当たって、検証体制に外部有識者が参画している地方公共団体の状況を見ると、8割超の地方公共団体で産官学金が参画している。
- 効果検証に当たって、住民からの意見聴取を実施している団体は8割超、特に若者を対象として意見聴取している団体は3割弱となっている。また、議会が関与している団体は8割超となっている。

検証体制における外部有識者の参画状況



若者（29歳以下）からの意見聴取の状況

| 区分 | 全体 (1,788) | 都道府県 (47) | 市区町村 (1,741) |
|------------|---------------|------------|---------------|
| ①中学生以下 | 86 (4.8%) | 1 (2.1%) | 85 (4.9%) |
| ②高校生 | 171 (9.6%) | 5 (10.6%) | 166 (9.5%) |
| ③大学生 | 180 (10.1%) | 10 (21.3%) | 170 (9.8%) |
| ④社会人 | 364 (20.4%) | 5 (10.6%) | 359 (20.6%) |
| ①～④計（重複除く） | 505 (28.2%) | 11 (23.4%) | 494 (28.4%) |
| ⑤意見聴取未実施 | 1,241 (69.4%) | 36 (76.6%) | 1,205 (69.2%) |
| ⑥無回答 | 42 (2.3%) | 0 (0.0%) | 42 (2.4%) |

住民からの意見聴取の状況

| 区分 | 全体 (1,788) | 都道府県 (47) | 市区町村 (1,741) |
|-------------------------|---------------|------------|---------------|
| ①検証体制に住民代表が参画 | 1,182 (66.1%) | 12 (25.5%) | 1,170 (67.2%) |
| ②パブリックコメントを実施 | 184 (10.3%) | 9 (19.1%) | 175 (10.1%) |
| ③アンケート調査を実施 | 289 (16.2%) | 5 (10.6%) | 284 (16.3%) |
| ④自治会等へのヒアリングを実施 | 62 (3.5%) | 0 (0.0%) | 62 (3.6%) |
| ⑤住民参加型のワーキンググループ等を開催・設置 | 62 (3.5%) | 0 (0.0%) | 62 (3.6%) |
| ⑥その他 | 139 (7.8%) | 15 (31.9%) | 124 (7.1%) |
| ①～⑥計（重複除く） | 1,514 (84.7%) | 36 (76.6%) | 1,478 (84.9%) |
| ⑦意見聴取未実施 | 258 (14.4%) | 11 (23.4%) | 247 (14.2%) |
| ⑧無回答 | 16 (0.9%) | 0 (0.0%) | 16 (0.9%) |

議会の関与の状況

| 区分 | 全体 (1,788) | 都道府県 (47) | 市区町村 (1,741) |
|--------------|---------------|------------|---------------|
| ①議会にて審議及び議決 | 37 (2.1%) | 2 (4.3%) | 35 (2.0%) |
| ②議会にて審議のみ | 274 (15.3%) | 24 (51.1%) | 250 (14.4%) |
| ③議員との意見交換を実施 | 859 (48.0%) | 15 (31.9%) | 844 (48.5%) |
| ④議員が検証機関に参画 | 313 (17.5%) | 2 (4.3%) | 311 (17.9%) |
| ⑤その他 | 223 (12.5%) | 7 (14.9%) | 216 (12.4%) |
| ①～⑤計（重複除く） | 1,541 (86.2%) | 45 (95.7%) | 1,496 (85.9%) |
| ⑥議会の関わりなし | 226 (12.6%) | 2 (4.3%) | 224 (12.9%) |
| ⑦無回答 | 21 (1.2%) | 0 (0.0%) | 21 (1.2%) |

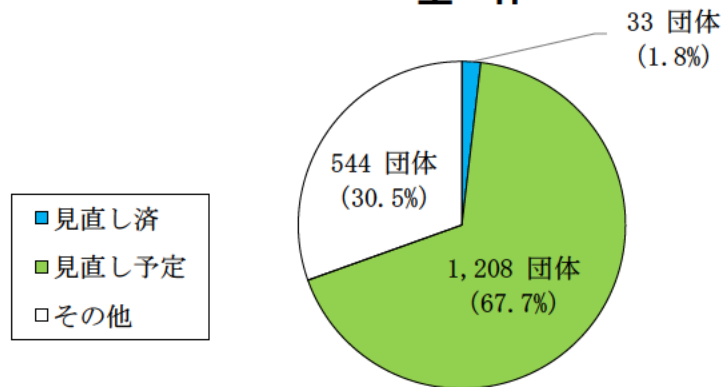
(備考) 1. 「無回答」は、いずれの項目にも回答がなかった団体数。
2. 端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

地方人口ビジョンの見直しの状況

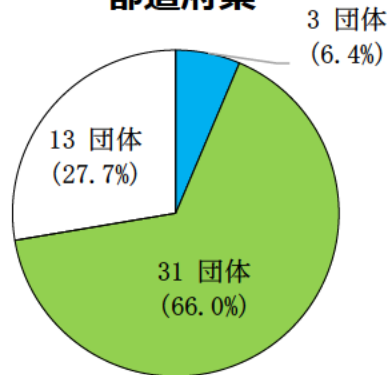
- 次期「地方版総合戦略」の策定に当たって、地方人口ビジョンの見直しを行う地方公共団体（見直し済みを含む。）は、全体で69.4%（都道府県：72.3%、市区町村：69.3%）となっている。
- 具体的な見直し内容を見ると、「将来人口の推計と分析」が全体で75.1%と最も高く、次いで「人口動向分析」が70.8%となっている。

地方人口ビジョンの見直しの状況

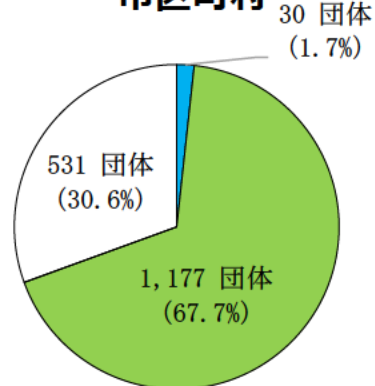
全 体



都道府県

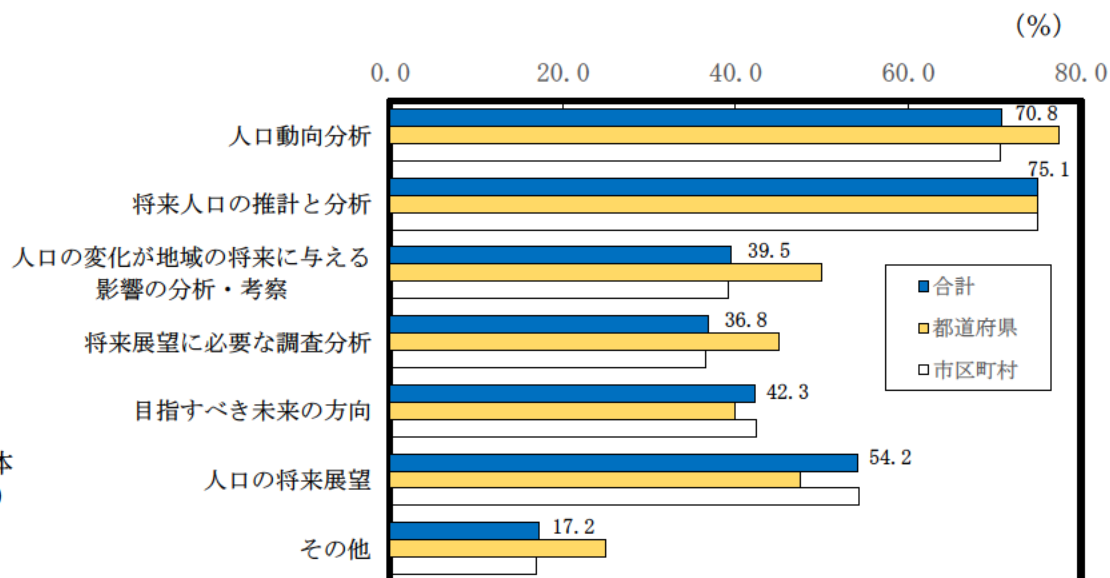


市区町村



- ※ 1. 「その他」は、主に未定、検討中など。
 2. 端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

地方人口ビジョンの見直しの内容（複数回答）



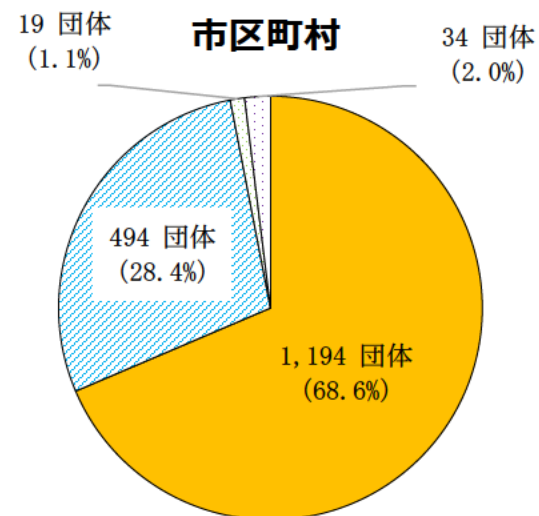
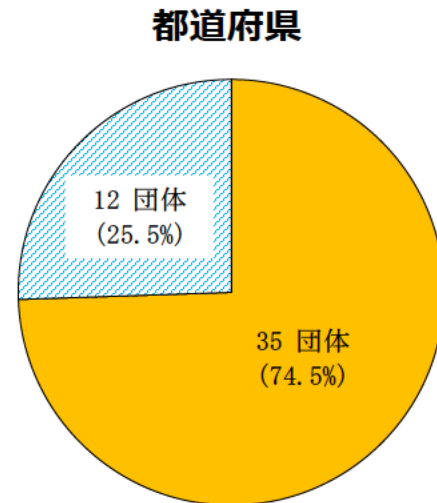
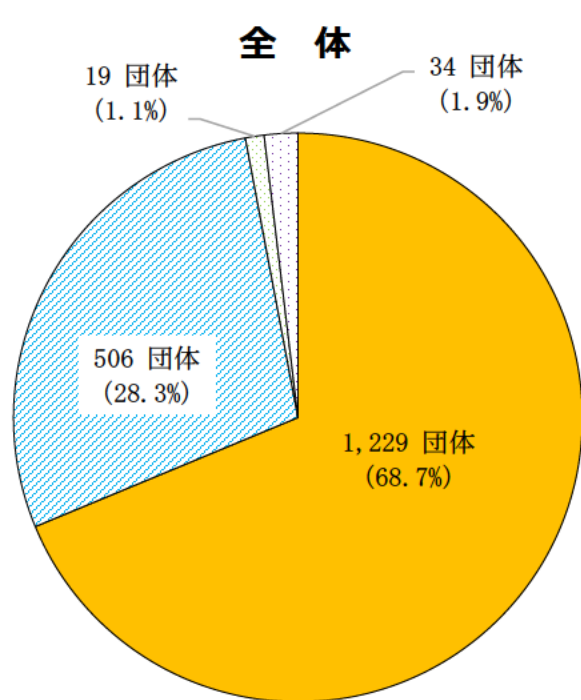
（参考）現行の地方人口ビジョンの対象期間

（単位：団体数）

| 終 期 | 2019 | 2020 | 2021 ～2039 | 2040 | 2045 | 2050 | 2060 | 2065～ |
|------|------|------|---------------|------|------|------|-------|-------|
| 都道府県 | | | 1 | 3 | 1 | | 36 | 6 |
| 市区町村 | 15 | 11 | 8 | 298 | 11 | 6 | 1,374 | 9 |
| 合 計 | 15 | 11 | 9 | 301 | 12 | 6 | 1,410 | 15 |

次期「地方版総合戦略」の策定状況等（全体）

- 次期「地方版総合戦略」の策定状況をみると、「未定・検討中」（1.9%）を除く全ての地方公共団体において、令和2年度以降も切れ目なく「地方版総合戦略」に基づく取組が継続される見込み。
- 令和元年度中に次期「地方版総合戦略」を策定する地方公共団体は、全体で68.7%（都道府県：74.5%、市区町村：68.6%）となっている。



- 調査時点以降、令和元年度中に策定
- 調査時点における戦略が令和2年度以降も継続
- 令和2年度中に策定（当該年度当初に遡って適用）
- 未定・検討中
- 策定しない・・・該当なし

（※ 調査時点：令和元年8月1日）

次期「地方版総合戦略」の策定状況等（都道府県別）

- ① 調査時点以降、令和元年度中に策定 ② 調査時点における戦略が令和2年度以降も継続
 ③ 令和2年度中に策定（当該年度当初に遡って適用） ④ 未定・検討中 ⑤ 策定しない（該当なし）

（※ 調査時点：令和元年8月1日）

単位：団体数（割合）

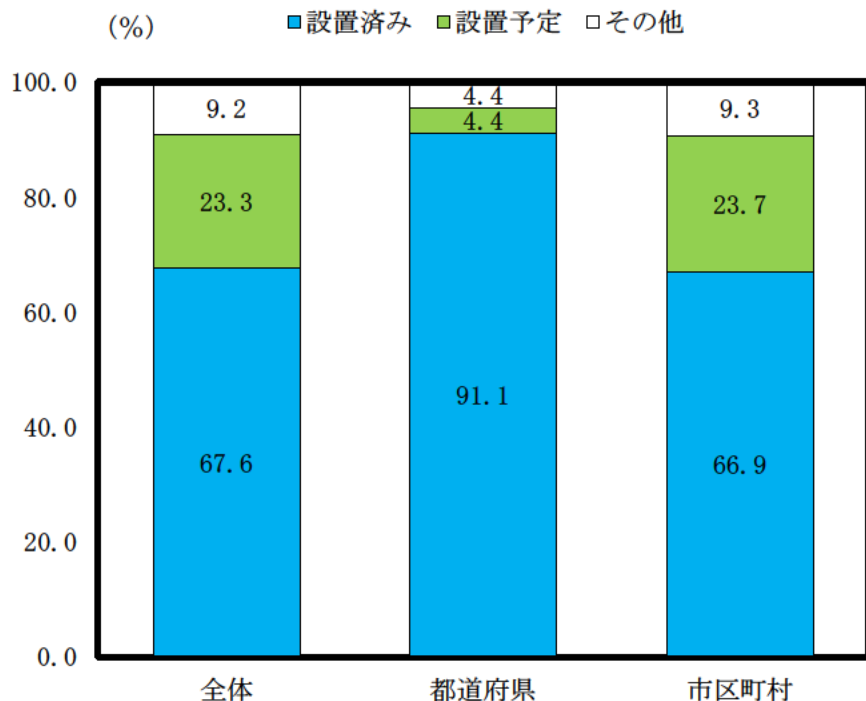
| 都道府県名（市区町村数） | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|--------------|--------------|------------|-----------|----------|-------|
| 全体(1,788) | 1,229(68.7%) | 506(28.3%) | 19(1.1%) | 34(1.9%) | 0(0%) |
| 都道府県計(47) | 35(74.5%) | 12(25.5%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 市区町村計(1,741) | 1,194(68.6%) | 494(28.4%) | 19(1.1%) | 34(2%) | 0(0%) |
| 北海道(179) | 154(86%) | 21(11.7%) | 2(1.1%) | 2(1.1%) | 0(0%) |
| 青森県(40) | 38(95%) | 2(5%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 岩手県(33) | 21(63.6%) | 10(30.3%) | 0(0%) | 2(6.1%) | 0(0%) |
| 宮城県(35) | 10(28.6%) | 25(71.4%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 秋田県(25) | 16(64%) | 9(36%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 山形県(35) | 22(62.9%) | 12(34.3%) | 1(2.9%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 福島県(59) | 42(71.2%) | 17(28.8%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 茨城県(44) | 30(68.2%) | 14(31.8%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 栃木県(25) | 15(60%) | 10(40%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 群馬県(35) | 30(85.7%) | 4(11.4%) | 0(0%) | 1(2.9%) | 0(0%) |
| 埼玉県(63) | 25(39.7%) | 35(55.6%) | 0(0%) | 3(4.8%) | 0(0%) |
| 千葉県(54) | 33(61.1%) | 20(37%) | 1(1.9%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 東京都(62) | 18(29%) | 25(40.3%) | 10(16.1%) | 9(14.5%) | 0(0%) |
| 神奈川県(33) | 22(66.7%) | 11(33.3%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 新潟県(30) | 21(70%) | 9(30%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 富山県(15) | 8(53.3%) | 7(46.7%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 石川県(19) | 19(100%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 福井県(17) | 11(64.7%) | 6(35.3%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 山梨県(27) | 26(96.3%) | 1(3.7%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 長野県(77) | 50(64.9%) | 23(29.9%) | 0(0%) | 4(5.2%) | 0(0%) |
| 岐阜県(42) | 34(81%) | 8(19%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 静岡県(35) | 22(62.9%) | 13(37.1%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |

| 都道府県名（市区町村数） | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
|--------------|-----------|-----------|---------|---------|-------|
| 愛知県(54) | 30(55.6%) | 21(38.9%) | 0(0%) | 3(5.6%) | 0(0%) |
| 三重県(29) | 14(48.3%) | 14(48.3%) | 0(0%) | 1(3.4%) | 0(0%) |
| 滋賀県(19) | 11(57.9%) | 7(36.8%) | 0(0%) | 1(5.3%) | 0(0%) |
| 京都府(26) | 21(80.8%) | 5(19.2%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 大阪府(43) | 16(37.2%) | 23(53.5%) | 1(2.3%) | 3(7%) | 0(0%) |
| 兵庫県(41) | 18(43.9%) | 23(56.1%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 奈良県(39) | 22(56.4%) | 17(43.6%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 和歌山県(30) | 20(66.7%) | 10(33.3%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 鳥取県(19) | 13(68.4%) | 6(31.6%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 島根県(19) | 14(73.7%) | 5(26.3%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 岡山県(27) | 13(48.1%) | 14(51.9%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 広島県(23) | 13(56.5%) | 9(39.1%) | 1(4.3%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 山口県(19) | 14(73.7%) | 5(26.3%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 徳島県(24) | 22(91.7%) | 1(4.2%) | 1(4.2%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 香川県(17) | 17(100%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 愛媛県(20) | 16(80%) | 4(20%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 高知県(34) | 34(100%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 福岡県(60) | 53(88.3%) | 6(10%) | 0(0%) | 1(1.7%) | 0(0%) |
| 佐賀県(20) | 15(75%) | 2(10%) | 1(5%) | 2(10%) | 0(0%) |
| 長崎県(21) | 17(81%) | 4(19%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 熊本県(45) | 43(95.6%) | 2(4.4%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 大分県(18) | 18(100%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 宮崎県(26) | 17(65.4%) | 9(34.6%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 鹿児島県(43) | 40(93%) | 3(7%) | 0(0%) | 0(0%) | 0(0%) |
| 沖縄県(41) | 16(39%) | 22(53.7%) | 1(2.4%) | 2(4.9%) | 0(0%) |

次期「地方版総合戦略」の策定における外部有識者等の参画状況

- 次期「地方版総合戦略」の策定に当たって、外部有識者等が参画する推進組織を設置している又は設置する予定の地方公共団体は、全体で90.9%（都道府県：95.5%、市区町村：90.6%）となっている。
- 次期「地方版総合戦略」の策定に当たって、推進組織に外部有識者等が参画している地方公共団体の状況をみると、9割超の地方公共団体で産官学金が参画している。

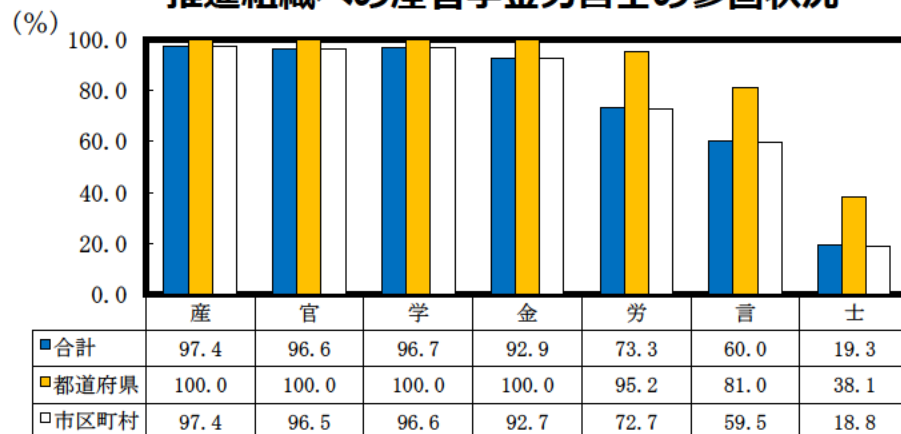
外部有識者等が参画する推進組織の設置状況



<「その他」の主な内容>

- ◆ 総合計画の審議会を活用
- ◆ 既存の会議体に有識者が参画する形で代用
- ◆ 未定・検討中

推進組織への産官学金労言士の参画状況



産官学金労言士の主な回答例

| 区分 | 主な参画主体 |
|---------|--|
| 産：産業界 | 経済同友会、商工会議所、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合、DMO、民間事業者等 |
| 官：行政機関 | 市長会、町村会、関係市区町村、職業安定所、財務事務所、経済産業局、地方整備局、農政局等 |
| 学：教育機関 | 大学、高等専門学校、小・中・高等学校、教育委員会、PTA等 |
| 金：金融機関 | 都市銀行、地方銀行、信用金庫、ゆうちょ銀行、農業協同組合等 |
| 労：労働団体 | 労働組合総連合会、労働者福祉協議会、勤労者福祉サービスセンター、社会福祉協議会、地方公共団体の職員労働組合等 |
| 言：報道機関等 | テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社、ウェブメディア、フリーライター、フリーアナウンサー等 |
| 士：士業 | 弁護士、司法書士、行政書士、公認会計士、税理士、建築士、不動産鑑定士、土地家屋調査士、中小企業診断士等 |

次期「地方版総合戦略」の策定における住民からの意見聴取の状況

- 次期「地方版総合戦略」の策定に当たって、何らかの方法で住民からの意見聴取を実施している地方公共団体は、全体で96.8%（都道府県：95.7%、市区町村：96.8%）となっている。
- 具体的な意見聴取の方法をみると、「パブリックコメントを実施」が66.2%と最も高く、次いで「推進組織に住民代表が参画」が65.6%となっている。

| 区 分 | 全体 (1,788) | 都道府県 (47) | 市区町村 (1,741) |
|-------------------------|------------------|---------------|------------------|
| ①推進組織に住民代表が参画 | 1,173 (65.6%) | 10 (21.3%) | 1,163 (66.8%) |
| ②パブリックコメントを実施 | 1,184 (66.2%) | 41 (87.2%) | 1,143 (65.7%) |
| ③アンケート調査を実施 | 815 (45.6%) | 16 (34.0%) | 799 (45.9%) |
| ④自治会等へのヒアリングを実施 | 216 (12.1%) | 1 (2.1%) | 215 (12.3%) |
| ⑤住民参加型のワーキンググループ等を開催・設置 | 368 (20.6%) | 8 (17.0%) | 360 (20.7%) |
| ⑥その他 | 189 (10.6%) | 8 (17.0%) | 181 (10.4%) |
| ①～⑥計（重複除く） | 1,730 (96.8%) | 45 (95.7%) | 1,685 (96.8%) |
| ⑦意見聴取未実施 | 30 (1.7%) | 1 (2.1%) | 29 (1.7%) |
| ⑧未定等 | 28 (1.6%) | 1 (2.1%) | 27 (1.6%) |

（備考）端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

次期「地方版総合戦略」の策定における若者（29歳以下）からの意見聴取の状況

- 次期「地方版総合戦略」の策定に当たって、住民のうち特に若者を対象として意見聴取を実施している地方公共団体は、全体で58.6%（都道府県：57.4%、市区町村：58.6%）となっている。
- 世代別にみると、「社会人」が36.6%と最も高く、次いで「高校生」が32.2%となっている。

| 区 分 | 全体 (1,788) | 都道府県 (47) | 市区町村 (1,741) |
|------------|------------------|---------------|------------------|
| ①中学生以下 | 326 (18.2%) | 0 (0.0%) | 326 (18.7%) |
| ②高校生 | 576 (32.2%) | 13 (27.7%) | 563 (32.3%) |
| ③大学生 | 454 (25.4%) | 25 (53.2%) | 429 (24.6%) |
| ④社会人 | 655 (36.6%) | 14 (29.8%) | 641 (36.8%) |
| ①～④計（重複除く） | 1,048 (58.6%) | 27 (57.4%) | 1,021 (58.6%) |
| ⑤意見聴取未実施 | 675 (37.8%) | 17 (36.2%) | 658 (37.8%) |
| ⑥未定等 | 65 (3.6%) | 3 (6.4%) | 62 (3.6%) |

（備考）端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

次期「地方版総合戦略」の策定における議会の関与の状況

- 次期「地方版総合戦略」の策定に当たって、議会が関与している地方公共団体は、全体で95.6%（都道府県：97.9%、市区町村：95.6%）となっている。
- 具体的な議会の関わり方をみると、「議員との意見交換を実施」が55.0%と最も高く、次いで「議員が推進組織に参画」が20.6%となっている。

| 区 分 | 全体 (1,788) | 都道府県 (47) | 市区町村 (1,741) |
|--------------|------------------|---------------|------------------|
| ①議会にて審議及び議決 | 129 (7.2%) | 15 (31.9%) | 114 (6.5%) |
| ②議会にて審議のみ | 321 (18.0%) | 20 (42.6%) | 301 (17.3%) |
| ③議員との意見交換を実施 | 984 (55.0%) | 14 (29.8%) | 970 (55.7%) |
| ④議員が推進組織に参画 | 368 (20.6%) | 3 (6.4%) | 365 (21.0%) |
| ⑤その他 | 48 (2.7%) | 0 (0.0%) | 48 (2.8%) |
| ①～⑤計（重複除く） | 1,710 (95.6%) | 46 (97.9%) | 1,664 (95.6%) |
| ⑥議会の関わりなし | 48 (2.7%) | 0 (0.0%) | 48 (2.8%) |
| ⑦未定等 | 30 (1.7%) | 1 (2.1%) | 29 (1.7%) |

（備考）端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

次期「地方版総合戦略」の策定に向けた特徴的なプロセスや内容

○ まち・ひと・しごと創生基本方針2019(令和元年6月21日閣議決定) 抜粋

IV. 国と地方の総合戦略の策定等について

地方においても、国の「総合戦略」を勘案し、地方創生の充実・強化に向け、切れ目ない取組を進めることが求められることから、各地方公共団体においては、現行の「地方版総合戦略」を検証し、次期「地方版総合戦略」の策定を進める必要がある。その策定に当たっては、各地方公共団体自らが責任を持って社会・経済状況の変化を捉え地域の将来像を考える観点から、幅広い年齢層の住民をはじめ、産官学金労言士などの多様な主体の参画を得るなど、各々の地域の特性に応じた検討プロセスを経ることも重要である。また、策定に当たっては、経済圏域における取組なども視野に入れ、行政区域を越えた広域的な連携を考慮する必要がある。

○ 次期「都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定等について(通知)(令和元年6月21日閣副第118号・府地創第24号) 抜粋

1 策定プロセス等の重要性

次期「地方版総合戦略」の策定に当たっては、各地方公共団体自らが責任を持って社会・経済状況の変化を捉え地域の将来像を考える観点から、幅広い層の住民をはじめ、産官学金労言士などの多様な主体の参画を得るなど、各々の地域の特性に応じた検討プロセスを経ることが重要であること。

現行の「地方版総合戦略」の策定に当たっては、各地方公共団体において、多様な主体の参画や広域連携による策定など、特徴的なプロセスを経て策定される事例が見られました。

こうした特徴的なプロセスや内容は、次期「地方版総合戦略」の策定においても継続的に取り入れられており、本調査における自由記載欄には、各地方公共団体における特徴的なプロセス等に関する記載が多く見られました。その一部を以下に掲載しますので、上記を踏まえ、各地方公共団体における次期「地方版総合戦略」の策定作業に当たって、参考としてください。

《 ① 地域住民の参画に工夫が見られる事例 》

- ◆ 小・中学生、高校生、18歳以上の町民を対象にしたアンケート調査やタウンミーティング(町長による意見聴取)を実施するほか、町民ワークショップを開催することで、まちづくりの課題や意見、提案等を幅広く収集。(北海道音更町)
- ◆ 若者の意見を反映させるため、市内全中学校・高校の生徒に対するアンケートを実施。(秋田県鹿角市)
- ◆ 地域おこし協力隊や集落支援員が主体となってワークショップを行い、地域の課題を掘り起こすとともに、地域住民の多様な意見を取り入れる。【予定】(栃木県矢板市)
- ◆ 実施した施策の現場検証への住民の参加等、PDCAサイクルにも住民が参画して進めていく。【予定】(神奈川県真鶴町)
- ◆ 産官学金労言に加え、若者や国際交流協会(外国人との多文化共生の観点)など、多様な主体から構成される会議を一般公開により開催。(静岡県)
- ◆ 若者が地方創生について考え、発表する政策コンテストを開催し、若者からのアイデアを戦略に反映。(静岡県浜松市)
- ◆ 総合戦略の柱となる人口減少対策の取組の検討に当たり、市内企業や各種団体が自ら企画提案し実行するための会議体を設置し、民間主導の取組の構築に向けて議論。(広島県福山市)
- ◆ 移住者からの意見聴取の場を設置。(香川県綾川町)
- ◆ 地元の銀行職員と市役所の若手職員で構成された「地域若手職員交流会(仮称)」を設置し、各分野に分かれて意見交換を行い、地元で働く職員に関心を深めてもらうとともに、取りまとめられた意見等を戦略に取り込む。【予定】(長崎県西海市)
- ◆ 子育て世代(PTA)を中心にしたワークショップを開催し、出された意見等を総合戦略の重点プロジェクトに位置付け。【予定】(鹿児島県南九州市)

《 ② 域外在住者から積極的に意見聴取を行っている事例 (1/2) 》

- ◆ 本県出身の学生・社会人をはじめとする首都圏在住者からの意見聴取。【予定】(山形県)
- ◆ 現行総合戦略に基づき組織された地域商社と連携し、都内在住の若者の意見を聴取。(山梨県山梨市)

《 ② 域外在住者から積極的に意見聴取を行っている事例（2/2） 》

- ◆無作為抽出によって招聘された市民向け「住民会議」と首都圏在住の市関係人口で構成する「ふるさと住民会議」を連動して実施し、意見聴取のためのワークショップを開催。【予定】(鹿児島県志布志市)
- ◆本町出身者及び本町と関わりのある関係人口層へのWEBアンケートを実施。【予定】(鹿児島県伊仙町)

《 ③ 新しい視点や地域独自の施策を取り入れている事例（1/2） 》

- ◆SDGsと企業版ふるさと納税の活用により施策の展開を図り、目指すべき将来像の実現につなげる。【予定】(北海道釧路町)
- ◆ソーシャルビッグデータを活用し、ネット上の口コミ・記事の中から「筑西市」を含むものを収集し、調査・解析を実施。【予定】(茨城県筑西市)
- ◆総合戦略の基軸として掲げる「『健康』応援都市の実現」に向けた取組をさらに加速化させ、「まち」の健康という視点から「健康」応援都市の実現に向けたイメージの共有化(見える化)を図るため「健康都市プログラム」を設定。(東京都西東京市)
- ◆外国人市民の定住化促進。(福井県越前市)
- ◆次期「地方版総合戦略」を「SDGsの達成に向けた行動計画」と位置付け(施策と17のゴールとの関係を明確にした上で、見える化)。(長野県)
- ◆高校生が参画できる取組をつくり、目指す将来像の実現につなげる。(岐阜県関市)
- ◆「デジタルマーケティング」の手法を活用した観光施策の強化を図る中で「観光で稼ぐ」の実現を目指す。また、「島田市版ネウボラ」の取組を新たに位置付け、「子育てするなら島田」の更なる推進を図る。(静岡県島田市)
- ◆高校生、大学生、若手経営者、子育て世代などの市内外の様々な層において「自分事として考え・語り・共に動き出す」機会(アンケート等)を創出し、関係人口化を図る。【予定】(静岡県袋井市)
- ◆県外在住者を対象にした移住に関するアンケート調査とともに、メッシュレベル(500m)で人口の将来推計を実施。(愛知県)
- ◆AIなどの新技術の活用や官民データの活用により、スマートシティ化や官民連携のプラットフォーム構築を図り、地域課題の解決につなげる。(愛知県西尾市)

《 ③ 新しい視点や地域独自の施策を取り入れている事例（2/2） 》

- ◆ ツイッターを開設し、戦略策定に関する動向等の情報を広く発信。（兵庫県高砂市）
- ◆ 木育の視点で政策を連携し、木への関心を高めることで、森林資源を活用した施策を展開。また、発酵文化を活かし、食のブランド化や健康づくり、交流人口の増加につながる施策を展開。（兵庫県宍粟市）
- ◆ 人口減少対策にペルソナマーケティングの考え方を導入。各種統計やアンケート結果からペルソナを設定し、各ペルソナの満足度を高める施策を構築。（広島県福山市）
- ◆ 定住人口と関係人口の両面を確保する取組を集中的に進めることで、総合計画における将来像及び人口目標の達成に向けた戦略を策定。（香川県三豊市）
- ◆ これまでのしごと創生の取組等に関係人口の創出・拡大や地域経営の視点に立った地域商社設立等を組み入れることで各施策を加速化させ、目指すべき将来像の実現につなげる。（熊本県津奈木町）

《 ④ 広域連携に関する事例 》

- ◆ 全国を7つの地域に分け、それぞれの地域で最も人口が少ない村によって「小さな村g7サミット」を組織し、地方創生に向けて連携協力。（北海道音威子府村、福島県檜枝岐村、山梨県丹波山村、和歌山県北山村、岡山県新庄村、高知県大川村、熊本県五木村）
- ◆ 全国5つの自治体で「教育・文化の先端自治体連合」を形成し、広域的な連携・競争による個々の地域資源を生かした文化度の高いまちの形成を目指す。（北海道東川町、富山県南砺市、兵庫県豊岡市、岡山県奈義町、香川県小豆島町）
- ◆ 県内15の圏域ごとに設置する「地方創生市町村圏域会議」において、各市町村が策定した地方版総合戦略の実現を県が総合的に支援。圏域で共通する課題、施策については、県と関係市町村が連携協力して取組を実施。（福岡県、県内市町村）
- ◆ 定住自立圏形成市町で連携して「地方創生連携協議会」を設置し、総合戦略策定状況や地方創生事業に関する意見交換等を実施。（宮崎県小林市、えびの市、高原町）